

February 4, 2014

インターリスクアジアタイランド

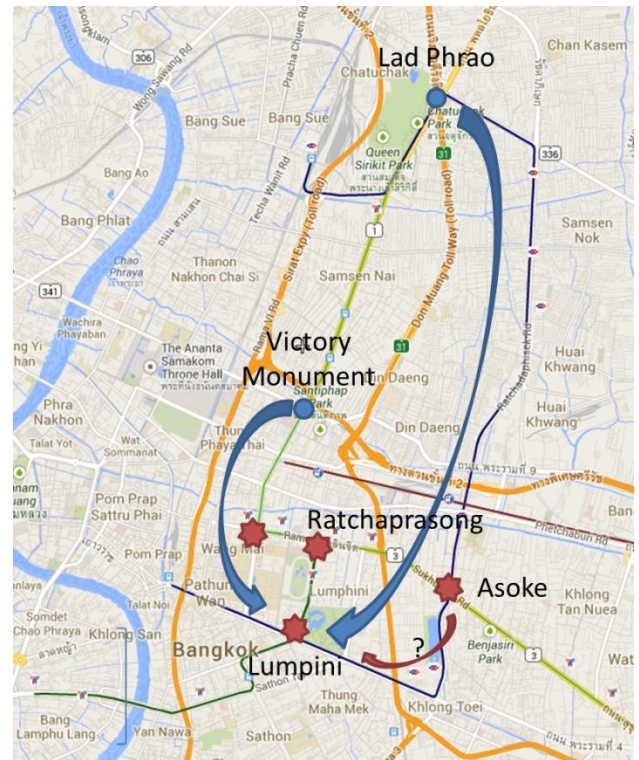
2014 年 2 月 4 日のデモの状況

本日午前 10 時-12 時の間に現在のデモの状況について左図 6 箇所の反政府デモのステージ設置場所を訪問の上、状況を確認いたしました。(本資料の写真は弊社撮影)

1. デモ隊の移動

Lad Phrao のステージと Victory Monument のステージは撤去され、報道されている通りデモ隊は移動しています。当該場所の人員は Lumpini ステージに移動した模様です。他ステージ Patumwan(MBK), Ratchaprasong (CTW) そして Asoke のステージは設置されたままです。

デモ隊のリーダーは、上記 2 箇所の撤収の理由について、2 月 3 日以降政府サイドからの暴力的圧力の可能性が高まることと、上記 2 箇所のステージでは過去に攻撃を受けたことから安全上の理由で移動したとコメントしています。



2. Lad Phrao および Victory Monument

下写真のとおりデモ隊はいません。道路の封鎖も解かれており通常の状態に戻っています。



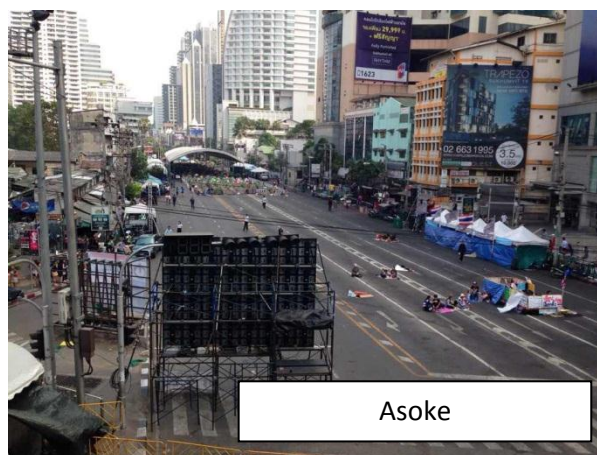
Lad Phrao



Victory Monument:

3. Lumpini、Patumwan、Ratchaprasong、Asoke

上記 4 箇所のステージは設置されたままです。但し、調査を実施した午前中は人は少ない状況でした。Lumpini 以外のステージでは、デモ隊リーダーの演説のテープが流されていましたが、ステージ前に聴衆はおらず閑散としている状況でした。また、Lumpini では演説が行われていましたが、聴衆は少なく 100 名程度でした。



デモの人数は確実に減少しています。1 月 13 日に調査した際との比較では約 1/10 以下の人数であるものと思われます。閉鎖した 2 箇所からのデモ隊が合流したと報道にあった Lumpini においてもその人数は少なく、一部推測されているデモの人数を確保することが難しくなっている可能性は否めません。

しかし、デモステージ現地での情報では、昼間はデモ参加者が働きに出るためステージの場所では人数が少なくなるが、夕方終業時間後、金曜等の休日前および休日に人が増える現象が起きているとのことで、デモ参加者の正確な人数の把握は難しいと考えられます。

4.住居用テント、日除け用大型テントそして診療所等

下記写真は Patumwan および Ratchaprasong で見受けられたものですが、昼間の日除け用と思われる大型テント、多数の住居用テント、そして診療所などが設置されているようです。これらは、当該場所での長期滞在を可能にするために用意されたものと考えられます。デモステージ周囲には多数の屋台、出店が出ているため水、食料の調達も容易であり、建物が周囲に多数存在するためトイレ等も問題ないものと推察されます。

ファシリティとしては長期の滞在が可能な状態であるものと拝察しました。



診療所



日除け大型テント



住居用テント



出店

5.今後の留意点

本調査にて、現在デモに参加している人々はバンコクで仕事を持っている人の割合が高くなっており、また、このデモ参加者の一部は路上で生活している可能性が高いことがわかりました。また、今後も滞在を継続するために必要なファシリティが設置されていることがわかりました。

従って、夜間および休日は多数のデモ参加者が当該場所に滞在している可能性があるため、付近には近づかないようにされることをお勧めします。

以上

参考情報

<http://www.dailynews.co.th/Content/politics/213466>

<http://www.manager.co.th/Politics/ViewNews.aspx?NewsID=9570000013016>

<http://www.manager.co.th/Politics/ViewNews.aspx?NewsID=9570000012968>

<http://www.dailynews.co.th/Content/politics/213438>

大使館、領事館ホームページ等では、危機管理情報として、デモが予想される場所の情報や、行動の諸注意が紹介されています。まずは個人としての行動に最大限留意し、不要不急の外出を控える等、十分な対策を講じてください。

本レポートは、マスコミ報道など公開されている情報やインタビュー、現地調査等に基づいて作成しております。また、本誌は、読者の方々および読者の方々が所属する組織のリスクマネジメントの取組みに役立てていただくことを目的としたものであり、事案そのものに対する批評その他を意図しているものではありません。